

腸管蠕動運動促進薬の 分類について

栄養療法において腸を動かす薬剤はとても重要です。腸管蠕動促進薬は主にアセチルコリンの作用を増強、またはコリンエステラーゼによるアセチルコリンの分解を抑制することで副交感神経を刺激し、効果を発揮します。しかし、適応や作用部位、コストも異なるためどのように使い分ければよいか分かりにくいと思います。各薬剤の明確な選択基準はありませんが、今回当院採用の腸管蠕動促進薬を表にまとめましたので、参考にしてみてください。

商品名	適応	作用部位*	作用機序	薬価(円)
アコファイト®	機能性ディスペプシアにおける食後膨満感、上腹部膨満感、早期満腹感	胃	ChEを阻害し、シナプス間隙におけるACh量を増加させる。	【錠】36.2
ガスモチン®	①慢性胃炎に伴う消化器症状 ②経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助	上部消化管 下部消化管	消化管内在神経叢に存在する5-HT ₄ 受容体を選択的に刺激し、ACh遊離を増大させる。	【散】38.7/g 【5 mg錠】19.20
ガナトン®	①慢性胃炎(胃の機能障害)における消化器症状	上部消化管 下部消化管	ドパミンD ₂ 受容体拮抗作用によりACh遊離を促進。ChE阻害によりACh分解を抑制。	【錠】18.90
大建中湯®	①腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの(イレウス改善の報告あり)	胃・十二指腸 (モルモットにて回腸蠕動促進の報告)	5-HT ₄ 、5-HT ₃ 受容体刺激によりACh遊離を促進。モチリン分泌を促進。知覚神経におけるTRPV1チャンネルを介してサブスタンスP遊離を促進。	【顆粒】9.70/g
パントール®	①パントテン酸欠乏症の予防及び治療②パントテン酸の需要が増大し、食事摂取が不十分な際の補給③ストレプトマイシン及びピカナマイシンの副作用の予防及び治療、接触皮膚炎、急・慢性湿疹、術後腸管麻痺	全身	ACh生成を促し、腸管の緊張増大や神経伝達の改善等により腸管蠕動運動を促進。	【100 mg注】56
プリンペラン®	次の場合の消化器機能異常: 胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胆嚢・胆道疾患、腎炎、尿毒症、乳幼児嘔吐、薬剤投与時、胃内・気管内挿管時、放射線照射時、開腹術後、X線検査時バリウムの通過促進	脳幹の消化管中枢 *大腸には作用を示さない(イヌ)	脳幹の消化管中枢に作用し、消化器の機能的反応ないしは運動異常を改善。中枢性嘔吐、末梢性嘔吐に対しても制吐作用を示す。	【錠】6.40 【注】57
プロスタルモン・F®	①妊娠末期における陣痛誘発・促進、分娩促進②治療的流産(膜外投与)③腸管蠕動亢進(胃腸管手術における術後腸管麻痺、麻痺性イレウス)	消化管	消化管縦走筋・輪状筋に作用し蠕動運動亢進。	【1 mg注】940
六君子湯®	胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐(胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの諸症)	胃	食道酸クリアランス改善。胃適応性弛緩への作用。胃排出改善。食道粘膜バリア機能改善。胃粘膜血流改善。 ※具体的作用機序記載なし	【顆粒】20.10/g
ワグスチゲミン®	【内服】①重症筋無力症 ②慢性胃炎、術後・分娩後の腸管麻痺、弛緩性便秘③手術後・分娩後排尿困難 【注射】①重症筋無力症、クラレ剤による遷延性呼吸抑制、術後・分娩後の腸管麻痺、排尿困難②非脱分極性筋弛緩薬の作用拮抗	Ach作動性神経 (動物実験にて下部消化管へより強く作用するとの報告あり)	ChEを阻害し、AChの作用を増強、また自らもACh様作用を有する。	【散】16.20/g 【2 mg注】258

Ach: アセチルコリン、ChE: コリンエステラーゼ
※表記はインタビューフォームより抜粋。